

日本側拠点機関名	北海道大学
日本側コーディネーター所属・氏名	アイヌ・先住民研究センター・加藤 博文
研究交流課題名	文化的多様性の形成過程の解明を目指す国際先住民研究拠点の構築
相手国及び拠点機関名	英国：オックスフォード大学 スウェーデン：ウプサラ大学 オランダ：フローニンゲン大学 台湾：国立台湾大学 オーストラリア：オーストラリア国立大学 カナダ：サイモン・フレーザー大学 ロシア：極東連邦大学

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】 交流期間（最長5年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。

地球社会は、技術・情報・言語の共有化が急速に進み、異文化間での交流機会が増している。その一方で人類社会は多様化し、歴史文化伝統に基盤をおいた集団的アイデンティティは強まり、文化的多様性の重要さが指摘されている。長い人類史において、文化的多様性は、生物学的に一つの種であるホモ・サピエンスが、多様な地球環境に適応する中で創造した人類社会を特徴付ける歴史文化遺産である。この文化的多様性を維持していくために、その多様性の基礎となっている各地域の歴史文化伝統の理解が不可欠である。その具体的な取り組みとして、各地域社会が直面する文化理解をめぐる現代的な課題の把握と、課題解決へ向けた学術的な議論の場を設け、比較研究を可能とする先端的研究拠点の形成が求められている。

本事業では、世界各地の先住民文化伝統、先住民歴史文化遺産、その今日的課題に焦点を当て、人類社会の文化的多様性の形成過程の解明を目指す。5年間の事業期間を通じて、欧米、アジア、オセアニア各地の海外研究拠点と連携した学術ネットワークを、国内唯一の先住民研究センターである北大アイヌ・先住民研究センターに構築する。また若手研究者育成のためのワークショップと共同研究を展開し、各国のリーディングスカラーと連携した若手研究者育成のための国際共同教育研究システムを構築する。

【研究交流計画の概要】 ①共同研究、②セミナー、③研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。

①共同研究：人類社会の文化的多様性の本質的議論と、地域ごとの文化的多様性の形成過程を明らかにするために、(R-1)「文化的多様性の歴史と先住性」と、(R-2)「人類の文化的行動としての移住・適応・統合」、の2つの共同研究を設定する。それぞれの共同研究では、欧米、アジア、オセアニアにおける地域的課題を抽出し、拠点機関間での国際比較研究を推進する。中間年度に共同研究のテーマに沿った研究討議を行い、最終年度には、二つのテーマを統合させた国際シンポジウムを開催する。

②セミナー：海外研究拠点において、多角的な視野から2つの共同研究テーマを議論するセミナーを開催する。文化的多様性の歴史は、考古学・生態人類学・文化人類学・自然人類学・文化遺産学など既存の学問領域からアプローチが可能であるが、各セミナーでは、特定の学問領域に限定せずに、先住民研究のコンテキストに沿って、領域横断的な議論の展開を目指す。また若手研究者に焦点を当てたセッションを独立して企画し、若手研究者の研究構想や成果を報告する機会の創出、国際的な研究交流の機会を設ける。

③研究者交流：海外拠点に所属する国際的なリーディングスカラーを我が国に招へいし、ワークショップを開催する一方で、日本側研究者に海外拠点での研究滞在の機会を提供し、研究交流を推進する。また若手研究者に特化した派遣プログラムを本事業の中核に位置付け、国際共同研究と海外で研究指導を受ける機会を創出する。若手研究者の派遣プログラムは、長期（1ヶ月から3ヶ月程度）と短期（1ヶ月未満）の2つのプログラムを設定し、若手研究者の海外機関の訪問滞在、海外拠点の研究施設の利用、海外のリーディングスカラーからの指導や助言を受けられる機会を提供する。さらに海外の研究者育成プログラムと連携することで、海外拠点から若手研究者を日本側研究拠点に受け入れ、共同研究を推進する。

[実施体制概念図] 本事業による経費支給期間（最長5年間）終了時までには構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。

